

2023年(令和5年)1月13日(金曜日)

## 電波新聞

ミハル通信

中村 俊一 社長

コロナ禍に加え、ウー増幅器などを展開し、クライナ情勢などによる

るサプライチェーンの混乱が続いている中、コネクターなどの部材の供給不足が長期化し、顧客への納入が滞るなど苦しい状況が続いた。

当社は部材調達強化や代替品への変更、装置の設計変更など、安定した納入に向け全力で取り組んできた。

昨年は放送サービスの高度化のためのインフラ整備として光化(FTTH化)への更新や館内自主放送システムの設備更新などが進んだ。今年も光化の更新需要に対応し、海外製品との価格競争に負けない、高性能マルチポート型光ファイバ

し、圧倒的な没入感を表現する。現在、低コストで導入が可能なLL Liteの非圧縮音声の低遅延伝送を進めている。昨年のI nter BEEでは、LL Liteを使用した「極超低遅延音声伝送システム」を初披露し、高い関心を集めた。今までは設備の老朽化と、エン지니어の高齢化などによる人手不足も課題となっていた。一方、CATV業界では設備の老朽化と、エン지니어の高齢化などによる人手不足も課題となっていた。現在、約70社が保守契約しているが、さらなる加入者の増加を目指したい。

社内では、IP時代において、昨年4月から「情報セキュリティ推進室」を新設し、情報セキュリティにも力を入れている。モノづくり企業として、モノづくりを強化しながら、ネットワーク、セキュリティも強化する。お客さまとのネットワークの健全性にもつながると考えている。

## 高周波とIPの技術を開発

## 42K対応「ELL Lite」開発中

まから高く評価され、既に受注を頂き2022年度内に納品予定。また、4K映像伝送の需要拡大により、2K/4K伝送に対応した「ELL Lite」を開発中で、23年度に製品化し本格的に市場参入を目指す。

昨年は映像のみならず、音声の低遅延伝送にも取り組んだ。音声は高音質で最大64チャンネルの出力に対応

て、ELL Liteの拡販を狙っていきたく。また、CATV以外での活用も見えてきた。これまで使っているISDN回線によるIP化が進んでいるFM放送業界からも非常に注目されている。コロナ禍において現場での対応が難しい状況の中、現場に行かずリモートで保守ができることで、好評を得ており、順調に追加も増えている。これまでCATVで培った高周波とIPの技術

8Kは放送のみならず、超高精細映像の導入者も増えている。さらに、監視対象機器の異常を知らせるメールを自動で選別し、不要でないメールは削除し、送信先を担当者別に振り分けるメールフィルタ機能も追加するなど、機能強化も行っている。現在、約70社が保守契約しているが、さらなる加入者の増加を目指したい。



中村 社長